

和歌山県トレセンU - 15 活動報告

第28回京都招待中学サッカー大会

【報告者】 土井和則（和歌山県トレセンスタッフ）

1. 大会概要

- (1) 日 時：2009年12月25日（金）～27日（日）
- (2) 会 場：京都府立山城総合運動公園（太陽が丘）
京都府立府民スポーツ広場（みどりが丘）
京都市下鳥羽公園球技場
- (3) 主 催：（社）京都府サッカー協会
- (4) 主 管：（社）京都府サッカー協会3種委員会
- (5) 大会方法：予選リーグ
5チームずつ4ブロック（A、B、C、D）に分け、それぞれ各グループごとに総当たりリーグ戦を行う。
決勝 トーナメント
予選リーグの結果より、それぞれの順位別の順位決定トーナメントを行う。
- (6) 試合時間：30分 - 5分 - 30分

2. 大会結果

参加チーム：京都府トレセン・奈良県中体連選抜・北河内トレセン・岡山県トレセン
埼玉東部トレセン・京都クラブ選抜・滋賀県トレセン・大阪市トレセン
福井県トレセン・千葉市トレセン・京都山城選抜・奈良県トレセン
大阪府トレセン・三重県トレセン・京都市選抜・京都口丹波選抜
京都中丹選抜・兵庫県トレセン・和歌山県トレセン・石川県トレセン

予選リーグ 12月25日（金）京都府立府民スポーツ広場（みどりが丘）

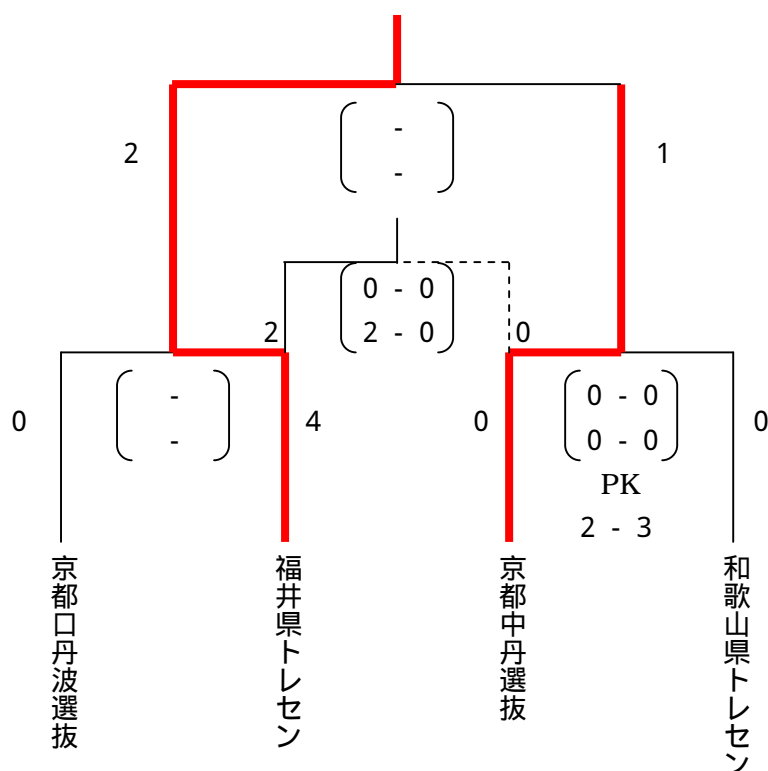
26日（土）京都市下鳥羽公園球技場

グループD

	京都山城	大阪府	埼玉東部	三重県	和歌山県	勝ち	分け	負け	勝点	得失	順位
京都山城	***	0 - 2	1 - 2	0 - 3	1 - 0	1	0	3	3	- 5	4
大阪府	2 - 0	***	7 - 1	1 - 0	4 - 0	4	0	0	12	13	1
埼玉東部	2 - 1	1 - 7	***	0 - 4	1 - 0	2	0	2	6	- 8	3
三重県	3 - 0	0 - 1	4 - 0	***	3 - 1	3	0	1	9	8	2
和歌山県	0 - 1	0 - 4	0 - 1	1 - 3	***	0	0	4	0	- 8	5

順位トーナメント 12月27日(日)

5位トーナメント 会場：京都府立府民スポーツ広場(みどりが丘)



第20位 和歌山県トレセン

3. 目的

- あいさつ、礼儀、宿舎でのマナー
- ゲーム前後のあいさつ
- 個人のプレー
- チームとして
- 勝利+プレーパフォーマンス
- 和歌山県選抜としてのプライドを持つ!!

4. チームコンセプト

攻撃

- ~ 攻撃の枚数をかける ~
- サポート角度、距離(近すぎず、遠すぎず)予測を入れる
- 守備から攻撃の切り替わり時にDFの拡がりを素早く 幅を使う
- 縦、横のモビリティ
- 相手に変化を起こさせる

守備

- パスを出されたら素早く寄せる
- ボールの奪い所(ボランチの前で)
- 高い位置からのプレス(FWの制限)
- 中盤からのプレスをしっかりかける

5 . テーマ

【技術の追求】

動きながらの技術を発揮することをベースに、ミドルパス&シュート。

【選択肢の追求】

オン・ザ・ピッチ、オフ・ザ・ピッチともに自らの判断を基に質の高い行動をすることをベースに、オン・ザ・ピッチでは、攻撃は自由に、守備は前から。

【勝負へのこだわり】

ゲームのみならずトレーニングにおいても勝つことへの執着心をベースに、「ミスを恐れず」「逃げるプレーはしない」をことあるごとに声かけした。

6 . 成果と課題

4、5、6月の練習会、夏の合同合宿から韓国遠征、12月の選考会を経て今回の大会に参加をした。

12月の選考会ではG Kも含め44名の選手に招集をかけたが、実際集まったのは25名と約半数であった。高校受験に対する不安からか辞退者が増えたものと考えられる。

夏の合同合宿、韓国遠征以降久しぶりの招集となったため、集団としては和歌山県 U-15 の代表として全員で活動の円滑化に努めることを目指し、個人としては公式戦から遠ざかっている選手も多いことからプレーパフォーマンスを上げることを目的に行った。オフ・ザ・ピッチでは生活面での自己管理やチームの荷物管理などは促したが、自分たちで考え、判断して行動していたことは以前よりも成長を見ることができた。

大会が終わってみれば予選リーグ4試合で勝点0、順位トーナメント2試合で負け、特に6試合合計で1得点の現実があった。

ゲームでは、自分のプレーは考えながらプレーしている選手は多くいたが、試合の流れや状況に応じて考えてプレーしているかという課題があった。また、今後選抜チームとして戦う上で一番大事な部分(今までも大事ではあったが)のコミュニケーションが十分とれていなかった。そのためチームとして・仲間として助け合うことが少なく、相手の攻撃に対し、自分のゾーンに入ってきた相手のマークはするが、ゾーンから出て行った相手に対して、味方に声をかけて受け渡しをしない。攻守において味方の視野から消えている選手やスペースがあることを、見えている選手が教えて上げない。そのため守備では、ディフェンスの間、ハーフとディフェンスの間にポジションをとられるとマークが曖昧になり、そこから崩されることが多く見られた。クロスに対する守備にしても相手を簡単にフリーにしてしまい、失点してしまう場面も見られた。

1月以降は活動を一旦休止し、3月に私立高校進学者及び高校1年生早生まれで練習会、姫路フェスティバルに参加、その後4月からは国体選抜候補選手として活動を行う予定である。受験によるブランクと、高校1年生になり所属チームでの出場機会が少なく公式戦から遠ざかる選手に対しての継続的な活動と試合経験を確保する必要がある。

今後、和歌山県代表選手として真剣勝負を闘うことで、技術・戦術の向上が見られるとは思いますが、まずイージーミスをなくし、1試合を通じてハイテンション・ハイプレッシャーな守備ができることをベースとしてほしい。

それぞれの試合の中での成果と課題は以下の通りである。

和歌山県トレセン 参加選手

背番号	氏 名	ポジション	所属チーム名
1	榎本雄士	G K	三佐木アルマボーラ
2	後藤慎也	M F	F C G O L A Z O
3	畑中宏太	F W	H.L.P デポルターレ U-15
4	田口 遼	M F	和歌山市立 紀之川中学校
6	森下翔馬	F W	ミラグロッソ海南 S C
7	松本 峻	F W	和歌山市立 紀之川中学校
8	古用翔大	M F	岩出 F C アズール
10	平和也	D F	伊都 F C J Y エクセルクウォーレ
11	大塚裕彬	D F	H.L.P デポルターレ U-15
12	松元大樹	F W	ミラグロッソ海南 S C
13	野口卓馬	D F	H.L.P デポルターレ U-15
14	奥田晃也	M F	三佐木アルマボーラ
15	山路真司	D F	井口敬斗
16	井口敬斗	G K	ミラグロッソ海南 S C
17	佐古将太	D F	岩出 F C アズール
18	岡本知也	D F	三佐木アルマボーラ

12月25日(金)予選リーグ 会場:京都府立府民スポーツ広場みどりが丘第2(クレー)

13:20 kick off (30分 - 5分 - 30分)

和歌山県トレセン 対 京都山城選抜

0 $\begin{bmatrix} 0 & - & 1 \\ 0 & - & 0 \end{bmatrix}$ 1



交代

時間	OUT	IN	備考
30分	平	田口	RMF 田口、RDF 山路
30分	松元	畑中	
30分	野口	後藤	Vo 後藤、LDF 奥田
30分	井口	榎本	
30分	岡本	古用	
48分	松本	松元	

得点

時間	チーム	得点者	得点経過(～:ドリブル :グラウンダーパス :浮き球 パス ×:混戦 S:シュート H:ヘディング)
6分	山城		(中央) パスミス (中央) 右足S

【成果】

サイドバックが前の選手を追い越す動きで数的優位を作り出したり、相手の裏へのスペースへワンツーで抜け出すといった動きをタイミング良く連続して行うことができた。

【課題】

状況に応じたファーストタッチができず、また足元に止めてしまうために相手、味方の状況を観てプレーのやり直しを行うことができない。

パスを止まって足元で受けるため、動きながら受ける、スペースへボールを動かすことに対する意識が薄く、ゴールに向かってしかけるプレーが少ない。

パスの出し手はもっと遠くを観ることと、受け手は遠くでアクションを起こす。

攻撃と守備の両方に関わる。奪ったら攻撃をしかけ、奪われたらすぐさまボールに、人にチャレンジできる。単発ではなく味方と連動し、連続しながら試合を通して機能する。

前線の動き出しのタイミングや前方を常に意識したビルドアップ。

中盤でフリーな状態になっても、ボールが前に進まず下げたり、無謀な突破や単調なパターンでの攻撃になってしまう。

12月25日(金)予選リーグ 会場:京都府立府民スポーツ広場みどりが丘第2(クレー)

15:40 kick off (30分 - 5分 - 30分)

和歌山県トレセン 対 三重県トレセン

1 $\begin{bmatrix} 0 & - & 0 \\ 1 & - & 3 \end{bmatrix}$ 3



交代

時間	OUT	IN	備考
30分	後藤	森下	
30分	田口	畑中	
30分	野口	大塚	
30分	井口	榎本	
30分	岡本	古用	
50分	古用	田口	

得点

時間	チーム	得点者	得点経過 (~:ドリブル :グラウンダーパス :浮き球 パス ×:混戦 S:シュート H:ヘディング)
33分	和歌山	松元	(左) (左) (中) (中) (中) (中) 右足S
47分	三重		エリア内(右) (中央) 左足S
52分	三重		(右) ~右足S
55分	三重		

【成果】

キックフェイントなどプレーのやり直しで選択肢を増やすことができた。

FWが空けたスペースにボランチが飛び出し、ゴール前に枚数をかけた厚みのある攻撃ができた。

【課題】

アプローチが弱く、相手を自由にプレーさせてしまったり、ボールを奪える局面を開かれ後手を踏んでしまっていた。

センターバックのポジションが曖昧で、2人の距離(DF時、門を閉める、段差でGAPをつくらない)やマークの間合いや距離が十分でなく、人は相手より多い状況でも簡単に裏を狙われてしまう。

ディフェンディングサードでミスを恐れてしまい単調なキックに逃げてしまう。

ビルドアップ時に優先順位を生かしたトップの動き出しやサイドハーフのアクション、ボランチの効果的なサポートから早くパスコースを探し出し、ワンタッチのタイミン

グを意識して突破を狙う。

攻撃時に相手カウンターに対してのリスクマネジメント、ポジショニング。

しかけていくときに相手の背後に身体を入れられずに切り返す場面が多く、切り返すと身体を寄せられて進路をふさがれることが多くあった。

遠くを観る。観るところが近すぎて角度もない。

相手の嫌がる良いポジション、斜めの動き、パスを入れる。

FWのDFとの駆け引きから、積極的に相手の裏を狙うことに課題。

12月26日(土)予選リーグ 会場：京都市下鳥羽公園球技場(人工芝)
12:20 kick off (30分 - 5分 - 30分)

和歌山県トレセン 対 埼玉東部トレセン

0 $\begin{bmatrix} 0 & - & 0 \\ 0 & - & 1 \end{bmatrix}$ 1



交代

時間	OUT	IN	備考
30分	田口	後藤	
30分	森下	畑中	
30分	山路	古用	
30分	佐古	大塚	
41分	後藤	山路	
55分	松元	佐古	CB 佐古、LSB 野口

得点

時間	チーム	得点者	得点経過 (~:ドリブル :グラウンダーパス :浮き球 パス ×:混戦 S:シュート H:ヘディング)
55分	埼玉東部		ゴール前×(中央) 右足

【成果】

縦へのくさびを入れながら相手守備陣が集結集中せざるを得ない状況を創り出し、サイドのオープンスペースにサイドバックのタイミングのよいオーバーラップからサイドに起点を作り幅・厚みのある攻撃。

【課題】

パスの出し手はもっと遠くを観ることと、受け手はボールから遠いところでマーク、スペースを観てポジションを取りアクションを起こす。

ボールと自分だけの関係が多く、ボールの移動中にできるだけゴールや遠くにいる選手、空いているスペース(逆の方向性)を観ることができていないため選択肢が少ない。FWのオフのかけひきがなく、スペースに出て行かずに足元を要求する場面が多い。自分とボールとの関係で動くことはできても、味方がどのスペースを狙っているかを観ていないため、動きが重なり上手くお互いにスペースをつくり、使うことができていない。

12月26日(土)予選リーグ 会場：京都市下鳥羽公園球技場(人工芝)
14:40 kick off (30分 - 5分 - 30分)

和歌山県トレセン 対 大阪府トレセン

0 $\begin{bmatrix} 0 & - & 1 \\ 0 & - & 3 \end{bmatrix}$ 4



交代

時間	OUT	IN	備考
30分	田口	森下	
30分	松本	松元	
35分	岡本	古用	
48分	畑中	後藤	

得点

時間	チーム	得点者	得点経過(～:ドリブル :グラウンダーパス :浮き球 パス ×:混戦 S:シュート H:ヘディング)
2分	大阪府		スローイン(右) (右) (中央) 右足S
36分	大阪府		(中央) (中央) 左足S
38分	大阪府		(中央) (右) 右足S
48分	大阪府		パスカット(中央) ~右足S

【成果】

【課題】

サイドに展開されたとき、ボールウォッチャーになりボールサイドに寄りすぎてしまいマークが視野に入っていない。

前線の方向限定と2列目3列目の奪うタイミングが合わずに、相手に隙間を与えてしまい起点を作られることがあった。全体を狭く一定にして、ファーストディフェンダ

ーのアクションに周りが反応できるよう、コンパクトフィールドを作り出し奪いにかかる必要がある。

セットプレーから簡単にボールを失わない。

積極的にボールに関わりパスしたら動いていくことで前方に選択肢を増やしていく攻撃。

ボール保持者の状況を観て、優先順位を理解した上で動き出すタイミングを計ることが課題。

ボールが縦に動く傾向が強く、単発で選択肢が少なくなっている。(攻撃の幅、厚み)

横、斜めのパスで角度、方向を変えることによってディフェンスに変化を起こす。

サイドチェンジの意識...前方が蓋をされたときに中に預けてサイドを変えるなど、やり直すプレーがあまり見られなかった。

ビルドアップ時にFWはオフのかけひきがなく、スペースに出て行かず、自分とボールとの関係で動くことはできても、味方がどのスペースを狙っているかを観ていないため、動きが重なり上手くお互いにスペースをつくり、使うことができていないためボールを引き出せない。

中盤からアタッキングサードでもボールを素早く、幅広く動かしながら、選手も流動的に動いて、相手守備陣の変化からスペースを見つけ、スピードアップしてゴールにしかける。

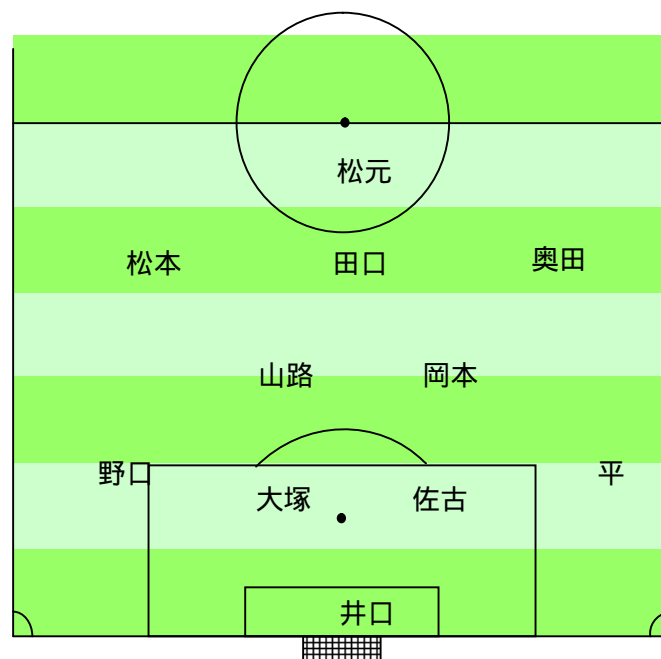
12月27日(日)5位トーナメント1回戦 会場：京都府立府民スポーツ広場

みどりが丘第3(クレー)

9:30 kick off (30分 - 5分 - 30分)

和歌山県トレセン 対 京都中丹選抜

0 $\left[\begin{array}{ccc} 0 & - & 0 \\ 0 & - & 0 \end{array} \right]$ 0
2 PK 3



交代

時間	OUT	IN	備考
22分	田口	森下	
30分	平	畑中	RHF 畑中 RDF 奥田
30分	松元	後藤	LHF 後藤、FW 松本
30分	井口	榎本	
30分	岡本	古用	

得点

時間	チーム	得点者	得点経過 (~:ドリブル :グランダーパス :浮き球 パス ×:混戦 S:シュート H:ヘディング)

【成果】

【課題】

パスコースを消されて出せない時の判断とコントロールからやり直しのプレー。
 サイドを起点にMFのFWを追い越す動きから、逆サイドのサイドバックが駆け上が
 ったの攻撃でしかけるプレー。
 ドリブルも含めてしかけることが突破することの考えしかなく、突破してからのラス
 トパスや、シュートに対してのプランがないときが多い。目的がゴールまでの逆算で
 はなく突破することになっており、状況を観ることができずに数的優位がわからない
 ことや、状況によってはアーリークロスを狙うなど、攻撃時に複数の選択肢がなく相
 手に守備をしやすくしている場面が多い。
 FWがターゲットになりボールを引きだしたり、くさびのボールをしっかり収めてキ
 ープし、2列目からの飛び出しやサイドのオープンスペースにサイドバックのタイミ
 ングのよいオーバーラップなど幅・厚みのある攻撃。
 アタッキングエリアで相手の逆を突くといったプレーがなく、相手を崩しきれない。
 また、ラストパスを狙うときに、人ばかり見てしまうため狭いスペースにボールを出
 してしまう。オープンスペースを狙う視野が必要。

12月27日(日)19位決定戦 会場:京都府立府民スポーツ広場みどりが丘第3(クレー)
 12:00 kick off (30分 - 5分 - 30分)

和歌山県トレセン 対 京都口丹波選抜
 0 [0 - 0] 2
 [0 - 2]

《前半》



《後半》



交代

時 間	OUT	IN	備 考
30分	榎本	井口	
30分	平	奥田	
30分	大塚	山路	
30分	野口	佐古	
30分	岡本	森下	
42分	後藤	平	CHF 平、RHF 田口

得点

時 間	チーム	得点者	得点経過(～:ドリブル :グラウンダーパス :浮き球 パス ×:混戦 S:シュート H:ヘディング)
41分	口丹波		ゴール前(中央)×(中央) 右足S
43分	口丹波		(右) ~ 右足S

【成果】

【課題】

ワンプレーで終わらず、ボールを奪われたらすぐに奪い返す意識が低い。守備の連続性がない。

アプローチにいて制限を加えてもそこで終わってしまう。相手が苦しい状況にある時は連続してプレッシャーをかけ続けボールを奪いきる。

プレーのやり直し。そのための選択肢を増やす。

DFが前を向いてボールを保持した瞬間にサイドとトップの選手はアクションを起こし、幅と厚みを持った選択肢の多い攻撃を起こす。

トライアングルの意識。パサーは1点ではなく広く観る。サポートの角度をとり、ボールに対して顔を出し面で受ける。

チャンスを逃さないで得点につなげるべくゴールに対して角度がありパワーを持って入っていくことやシュートの正確性を上げることが必要になる。

FWがターゲットになり縦へのくさび、前方に起点を創り出す意図的なプレー。